

真木

第 212 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目 次

俳句をユネスコ無形遺産登録へ……………	会長 能村研三	1
第十回千葉県俳句大賞決まる……………		2
大賞 句集『風紋』 広渡敬雄……………		3
準賞 句集『遊戯の遠景』 峰崎成規……………		4
奨励賞 句集『勾玉』 中山和子……………		5
俳句大賞選評、受賞者のことは……………		7
俳句短冊展『冬・新年を詠む』……………		8
千葉県俳壇ニュース、結社賞……………		9
新入会員一句、基金御礼、受贈誌より、事務局日誌……………		9

巻頭言

俳句をユネスコ

無形遺産登録へ

会長 能村 研三



今年には昭和一〇〇年、戦後八〇年の年になりま
す。本年千葉県俳句作家協会は五四年目を迎えま
した。昭和四六年五月に設立総会が千葉市の奈良
屋デパートで開催され、出席者は八八名と末広が
りの人数で、これからの発展を予感させるもので
ありました。初代会長には杉本北祐さんが就任さ
れました。

二〇二五年の乙巳(きのとみ)の年は、多くの
人にとって成長と結実の時期となる可能性が高い
と言われています。「乙」はまだ発展途上の状態を
表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意
味し、この組み合わせは、これまでの努力や準備
が実を結び始める時期であるそうです。

現在、私が会長を務めております、俳句ユネス
コ無形文化遺産登録協議会について少しお話をせ
ていただきます。

俳句ユネスコ無形文化遺産に登録しようと俳句
四団体を中心になって推進運動を展開しておりま
すが、これは、二〇一七年に三重県の伊賀市にお
いて、初代会長をお努めいただいた有馬朗人先生、
伊賀市長の岡本栄市長を始め各協会の鷹羽狩行先

生、金子兜太先生、稲畑汀子先生が一同に介され、
推進運動に拍車がかかってまいりました。
現在は初代の有馬朗人会長の後を引き継いでお
ります。

当初はユネスコ登録だけの運動でありましたが、
現在はユネスコ登録の流れに合わせて文化庁の無
形文化財登録へ向けて運動を加速させていること
であります。現在この運動は国際俳句協会(略
称IJF)を中心に文化庁の無形文化財登録に協力
し、登録された際必要とされる保持団体となるべ
く行動しています。一方、俳句ユネスコ無形文化
遺産登録推進協議会はユネスコ登録を主体に動い
ております。

現在は文化庁の無形文化財登録に俳句を含めた
短詩形文学を登録する調査に協力しており、この
調査には当協会の秋尾敏副会長も加わっていた
ております。

ユネスコ登録には、まだ時間がかかると思われ
ますが、当協会の皆様にもご協力をいただき、一
日も早い登録に向けて努力を重ねてまいりたいと
思いますので、ご声援をお願いいたします。

第10回千葉県俳句大賞決まる

千葉県俳句作家協会では千葉県内に居住する作家が、毎年十二月一日より翌年の十一月末日までに刊行した句集を対象に「千葉県俳句大賞」を設定し表彰を行っている。作品は自薦・他薦を問わず、また当協会に加盟の有無も問わず、選考事務局に送付された全句集が対象である。

本年は九句集の応募があった。各作家による各自の句集より、自選二十句を選者六人に前もって配布、検討を依頼した。

選考会は昨年十二月二十一日、午後三時より沖、市川分室「鷹の木文庫」に於いて開催した。選考委員は能村研三、増成栗人、秋尾敏、北川昭久、石井紀美子、村上喜代子である。

選考委員は各句集の自選二十句をもとに前もって検討、それをもとに当日六人が真剣な討議を交わし、左記のとおり本年度の受賞句集が決定した。

大賞・広渡敬雄、準賞・峰崎成規は「沖」同人。奨励賞・中山和子は「初蝶」代表。

選考会においては一冊一冊の句集をさまざまな角度から検討、熱の籠った討議がなされたことを付記する。

◎第十回 千葉県俳句大賞

句集『風紋』

広渡 敬雄

角川書店 (二〇二四年 刊行)

同 準賞

句集『遊戯の遠景』 峰崎 成規

角川書店 (二〇二四年 刊行)

同 奨励賞

句集『勾玉』

中山 和子

東京四季 (二〇二四年 刊行)

選考委員は俳人協会・現代俳句協会・伝統俳句協会の三団体で当協会所属の作家たち。それぞれの協会の枠を超えた真剣な討議の場である。さらに広く県内の俳人の功績を顕彰してゆきたく、来期も奮つての皆様の応募を期待している。

(村上喜代子)

選考委員

能村 研三

増成 栗人

秋尾 敏

北川 昭久

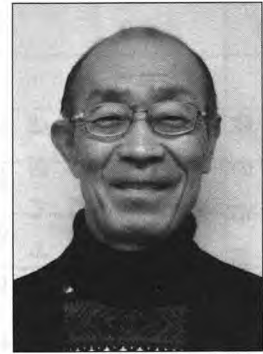
石井 紀美子

村上 喜代子



千葉県俳句大賞 選考委員

大賞



句集『風紋』

広渡 敬雄 自選二十句

昭和二十六年四月十三日生まれ
「沖」蒼茫集同人、俳人協会幹事、「塔の会」幹事、日本文藝家協会会員、
日本山岳会会員
句集『遠賀川』、『ライカ』、『間取図』
著書『俳句で巡る日本の樹木50選』、『全国俳枕の旅62選』

大海を振り切る揺らぎ初日の出	まだ温き草に座りぬ大花火
音のなき潮のうねりの淑気かな	献杯は眉の高さに小鳥来る
風紋は沖よりのふみ夕千鳥	梨剥くや水の瀬戸際ゆくごとし
絵師彫師摺師版元初仕事	ベトナムに子がゐると言ふ夜学生
新海苔の罐のよき音よき軽さ	顔出してバックするなり焼芋屋
春炬燵目葉ぼいと投げくれし	一本の冬木を父と思ひけり
灯台官舎ありし灯台春惜しむ	鯉を飼ふ山の戸や冬支度
茶毘に付すもう昼寝せぬ子となりて	烏瓜引かるるが好き引いてやる
睡蓮を揺らす波その返し波	一位の実さらに小さき掌に渡す
御来迎彼の世の我に手を振りぬ	撃たれたる熊の融かせる雪の窪

準賞



句集『遊戯の遠景』

峰崎成規 自選二十句

昭和二十三年九月生まれ
「沖」同人会幹事長、俳人協会幹事
句集『銀河の一滴』
行徳新聞 市川新聞選者

去年今年軽重問はず背負うもの
海隴進化おぼろの深海魚
歳月を奪ひ去らむと野火走る
春雷や彫師の鑿に龍の浮く
村いくつ市の名に吞まれ麦の秋
船渡御の龍の舳先が川を割る
祭笛尽きて小若は母の胸
黒潮は太き助走路初鯉
子子の明日飛ぶためのストレッチ
中心は孤独な居場所女郎蜘蛛
新涼や等身大は生きやすし
少年の目に戻る日の翳雲
蔵書てふ二度読まぬ本秋ともし
真つ新たな影に会はむと障子貼る
無言とは時には威嚇大海鼠
冬早風の音積むローム層
シャンパンに星次々と湧く聖夜
歳の市藁の匂ひを買いにけり
神輿庫の太き門冬ざるる
塗師の篋光均して春隣り

奨励賞



句集『勾玉』

中山和子 自選二十句

昭和十七年生まれ
「初蝶」代表、俳人協会会員、
俳人協会千葉県支部幹事
句集『分別顔』、『迷路』
エッセイ集『季語の思い出』

麻服の皺良し九十九髪も良し
病葉へ等しく雨の降る日かな
年用意修正液を買ひ足して
未央柳剪りてこの先予定なし
藪枯しはびこるままを相続す
浜菊や海女の塔婆の括られて
捨てるため拾ふ棒切れ十二月
零余子蔓手繰りこの世に後れけり
而してほとけとふたりお元日
道順に逆らひ春水に出会ひ
デッサンの胴のくびれのさはやかに
杭一本定員一羽ゆりかもめ
ぼろ市の血赤珊瑚のネックレス
断りの電話へ御慶申しけり
笹鳴きやうしろへ動く猫の耳
愚痴言ひに来て噴水の高からず
ブラウスに飯粒乾びるて晩夏
無防備に通草は裂けてるたりけり
骰子は三のぞろ目のまま師走
国宝のあをき勾玉さくら冷

第十回 千葉県俳句大賞選評

大賞句集『風紋』選評

秋尾 敏

準賞句集『遊戯の遠景』選評

能村 研三

奨励賞句集『勾玉』選評

北川 昭久

『遠賀川』『ライカ』『間取図』に続く第四句集で、平成二十八年から令和五年までの三三三句が収められている。すでに前句集の『間取図』が準賞を受賞しており、審査会では、さらなる進展があったかという点が話し合われた。『間取図』の方が好ましかったという意見も出たが、円熟味を加えたという評もあり、いずれにせよ四冊の句集を刊行しているということ自体が、千葉県俳壇の質を高めているという結論に至った。災害や不穏な状況をも直視し、深い洞察によつてそこに叙情を生み出すという姿勢は共感できる。今後のさらなる句境の進展にも期待したい。

選考にあたっては、著者の長年にわたる執筆活動も評価の対象となった。本賞の目的である千葉県俳壇の存在価値に貢献するという点を考慮すれば当然のことである。『俳句で巡る日本の樹木50選』『全国俳枕の旅62選』等の著書がある。また、俳句評論や山岳関係の寄稿もある。なお、受賞者は福岡県遠賀郡出身で、「沖」蒼茫集同人である。

『遊戯の遠景』は峰崎成規さんの『銀河の一滴』に続く第二句集。平成二十八年から令和五年までの三百三十句を収めている。今回の選考では一位に推した選者が四人おられ千葉県俳句大賞の準賞を授与することになった。峰崎さんは日頃から海外工場の経営管理、地元行徳に戻つては「神輿の町」行徳のまちづくり活動にもリーダーとして参加されている。峰崎さんは行徳神輿の「御三家」の一つ五百年続いた浅子神輿の末裔で、本句集にも神輿の町を詠んだ二十句も掲載されており、今回の句集では何事にも夢中になっている自分と同時にそれをパースペクティブに見詰めている自分というものの視点に置いた句集である。現在は「沖」の幹事長を務められ、結社事業の企画運営などにも中心になって活躍されている。

去年今年軽重問はず背負ふもの
黒潮は太き助走路初鯉
新涼や等身大は生きやすし

句集『勾玉』は、『分別顔』、『迷路』に続く第三句集であり、令和二年から六年にわたるコロナ禍の中での、三百余句が収録されている。帯の句は奇を衒うこともなく、淡々と身辺の景を捉えて、過不足がない。「初蝶」創刊主宰の細川加賀と継いだ小笠原和夫主宰の思ひを踏まえ、その歩みを引き継ぎ、結社の灯を脈々と継ぐという決意が垣間見える句でもある。

麻服の黴良し九十九髪も良し
病葉へ等しく雨の降る日かな
そして、日常の身辺を外連味なく句にするスタン
スは將に俳人のもの。

年用意修正液を買ひ足して
捨てるため拾ふ棒切れ十二月
「初蝶」は、今年十一月に創刊四十周年を迎える。
結社「初蝶」の継続と句友への思いを詠った句（あ
とがき）が今回の句集名である。

国宝のあをき勾玉桜冷

第十回千葉県俳句大賞

受賞者のことば

大賞

広渡敬雄

準賞

峰崎成規

奨励賞

中山和子

この度は、第十回千葉県俳句大賞を賜り、大変嬉しく感謝申し上げます。

今回の拙句集『風紋』は、東日本大震災から五年目の平成二十八年に、気仙沼を訪ね、海岸の風紋が津波で亡くなられた人達の冥界からの便りと思ひ、詠みあげた句群から、世界に戦禍の絶えない令和六年までの句から成ります。

句集には、一貫して私自身も含め、多くの人や動植物が日常を生きた証を俳句で留めたいという強い思いが底流にあります。

動植物が精一杯生きている景にはいつも目頭が熱くなります。雪解川を必死に渡る鹿、雪の重さで傾いた山毛櫨が先ず根元から雪が解ける（根開き）光景。人の営みでは、廃屋の部屋に残る嘗ての住民の冷蔵庫等の生活用品も。

句集の終盤近くに、奇しくも震災前の能登の景を詠んだ句群があります。その後の悲惨な震災や洪水の惨禍を受けた能登が、私が詠った景に戻ることを切に祈るばかりです。

前句集『間取図』で、第二回千葉県俳句大賞準賞を頂きましたが、その表彰盾に刻まれた「万感をものに託して語りきった句集で、千葉県俳壇の誇りとなる」を心の糧として、歩んで参りました。引き続き尚一層精進したいと思ひます。大変有難うございました。

此度は拙句集『遊戯の遠景』に対し、千葉県俳句大賞の準賞を賜りまして深く感謝申し上げます。ご推薦いただきました選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。

平成二十五年に第二十七回千葉県俳句作家協会新人賞をいただいた時の喜びが蘇ってまいりました。当時は初心者として我武者羅に俳句に挑戦して、この会の新人賞への憧れをもって応募しましたのが昨日のように思い出されます。その後、第一句集『銀河の一滴』を上梓いたしました。その句集制作時の俳句への集中した熱い思いは今でも胸に深く残り、その情熱の再現に駆られ、その後の八年間を第二句集『遊戯の遠景』に纏め刊行いたしました。

第二句集は、自分と対象との距離を意識し、揺れ動く私の視点（心）から見詰めた風景を詠んできました。海外の仕事や地元行徳のまちづくりに多忙な日々を送りながらの句作りでしたが、それらの日常をパースペクティブに捉えることを意識して詠みあげた句集に仕上げてみました。

今回の受賞を励みとして、今後もこの視点を通して、俳句の世界をより広めより深めて詠み続けていきたいと思っております。この度は大変ありがとうございました。

この度は思いもかけず奨励賞という栄誉ある賞を頂き誠にありがとうございました。

代表を努めている「初蝶」は二〇二四年十一月で創刊四十年になり、時を同じくして創刊四十年という東京四季出版社からの特別企画への誘いに応じて上梓したものです。先代小笠原和男を失って七年、代表を引き受けて五年、その間コロナ禍の為の停滞期間があり自分に活を入れたいと思ひころもありました。

国宝のあをき勾玉さくら冷は句集名になつた句です。東京博物館法隆寺宝物館で詠んだのですが、法隆寺館に国宝の勾玉はないと校正者からチェックがはいり、慌てました。そんなはずはない、一階の中央口から入って左手のこのガラスケースの中にあつたのだと言つたのですが、国立博物館側は展示品はすべてデータ化されてパソコンに入っていて私の行ったその日は勿論前後すべて調べてくれたが、国宝勾玉は無かつたのです。寺社からの奉納品が総て国宝でその中に勾玉がある、という事例はあるという博物館側の提案に妥協しようと思ひました。あの国宝という字と碧い勾玉が幻だったとは金輪際言わない、裏交じりの雨の降るあの日あの句を成したのだから。選んで頂き有難うございました。

第10回千葉県俳句大賞選考対象句集

番号	賞	句集名	著者	刊行年月日	刊行出版社	現住所	所属結社
1	大賞	風紋	広渡 敬雄	2024.7.17	角川書店	千葉市	沖
2		若水	藤埜 まさ志	2024.2.3	東京四季	流山市	森の座
3		顔の原型	石井 稔	2024.9.15	俳句アトラス	佐倉市	好日
4		彩雲	小見 恭子	2024.5.27	ふらんす堂	佐倉市	いには
5	奨励賞	マガタマ 勾玉	中山 和子	2024.11.8	東京四季	千葉市	初蝶
6	準賞	遊戯の遠景	峰崎 成規	2024.9.20	角川書店	市川市	沖
7		風騒	大久保 文夫	2024.9.25	朔出版	八千代市	いには
8		白熱灯	東 國人	2024.2.14	コールサック社	南房総市	青群・ベガサス ・蜜・祭演

俳句短冊展『冬・新年を詠む』

千葉県俳句作家協会では、令和七年一月六日、十九日にかけて青葉の森芸術文化ホールで俳句短冊展を実施した。これは、同ホールにて開催された「みんなが能舞台に触れるweek」に合わせて行われた企画で、協会の参加も恒例となっている。俳句の短冊は風景写真とともに展示され、期間中多くの来場者が足を留めて鑑賞した。以下に、展示された作品を掲載する。

立春大吉黒竹の撥ね強し
生涯を下戸で通して去年今年
躓きし石見当たらず冴返る
沖に雲積みて木枯波になる
欠伸するたび鼻がこちら向く
馬の眸の奥に考るる雪催
風の息煮詰まつてゆく寒牡丹
歌ひしか海に鯨の軋みあり
先生も雪に気づきて寄る窓辺
元朝や風ぐ長堤にかもめ鳥
はきはきと良き声の来てお年玉
まだ化粧ふ愉快ありけり冬さうび
林火忌の月振り返る坂がかり
初明り森に息づくものの音
寒林や日の大きくて入るところ
能面のほのかな木の香冬銀河

能村 研三
増成 栗人
北川 昭久
石井紀美子
高橋 健文
加藤 峰子
三浦 侃
飯田 晴
葛西 茂美
鎌田 光恵
すずき巴里
須田真里子
滝口 滋子
中村 世都
染谷 卓
稗田 寿明

枯草はあしたの巣箱光食む
福逃げぬやうに抱へて初袋
都鳥遙かに富士の浮かびたる
冬林檎ことりと夜がやってくる
偏かる日に寒林の膨らめり
獣らの眠り見届け山眠る



平岡 育也
藤井 稜雨
村上喜代子
祐 森司
藤田 考成
山岸 明子



会場風景

千葉県俳壇二ニュース

第七十七回館山市文化祭俳句大会

館山市文化祭・館山市俳句連盟第七十七回俳句大会が、十一月一日、開催された。今年度は、講師に、俳誌「沖」副主宰、俳誌「出航」主宰の森岡正作氏を迎え講演を行った。演題は「結局、能村登四郎―登四郎の弟子たち」。二十代からの俳句人生を、若き日の「沖」のメンバー、能村研三、福永耕二、正木ゆう子、中原道夫等との交流をユーモアを交え熱く語った。選者は、十名。一〇〇名の投句者の三〇〇句を冊子にし、選者十名の選によって順位を決め表彰した。

兼題上位者 作品

- ①新涼や法話透きゆく百疊間 伊藤よし江
- ②冷奴要らざるものに虚栄心 金光 浩彰
- ③B面のやうな人生著我の花 牧野 力
- ④啞蟬や永久に変はらね九条は 粕谷 艸水
- ⑤陶工の爪に土ありそばの花 山下喜美子
- ⑥松蟬のこゑ唐棧を織るごとし 栗坪 和子
- ⑦秋しぐれ五百羅漢に祖父の顔 湯川 敬之
- ⑧かなかなの夕日に声を溶かしけり 高梨 光素
- ⑨杖の身を晒すに慣れし吾亦紅 的場 伸枝
- ⑩草笛や乳房ゆたかに牧の牛 櫻井 泰

佐久間由子

第四十八回君津市民芸術祭俳句大会

日時 令和六年十一月十日(日)
会場 君津市生涯交流学習センター
持寄り二句。選評後選者石井紀美子氏の講話があった。
入賞句(二句合点) 代表作句

- ①朝は富士夜は銀河に開く窓 鈴木 美幸
 - ②冬田打つ父何処からも見えて居り 加藤 法子
 - ③今もなほ昭和を暮し大豆干す 戸谷 洋子
 - ④余生まだ精進の道百舌鳥高音 原田 芳女
 - ⑤淋しさがはみ出してはいる冬夕焼 石井紀美子
 - ⑥肅肅と生きた証しの落葉掃く 兵藤千恵子
 - ⑦大口を開けて秋思の登山靴 斉藤すず子
 - ⑧見通せぬ葛湯の底と世の動き 菊地 喜己
 - ⑨不器用の指を逃げだす衣かつぎ 高橋富久江
 - ⑩往く秋や遠嶺の果ての薄き雲 野口 糸朗
- (実行委員長 伯ヶ部喜久男 報)

● 結社賞 ●

- 令和六年度「好日三賞」「年度賞」
好日賞 「竿灯」北村土守 士 守
- 一齐に竿灯立てば闇退けり
佳作 「一期一会」重城弥生 弥 生
- 梅一輪一期一会の言葉あり
青雲賞 「こちら地球」森本香子 香 子
- 春の月こちら地球ですとうぞ
次席 「原子炉」今井礼子 礼 子
- 虎落笛原子炉七基眠る郷
佳作 「伝言」久保内八千代 八千代
- 揚羽来る何か伝言あるやうな
白雲賞 「秋扇」越野雄治 雄 治
- 秋扇の男出てくる茂吉展
年度賞 「風見鶏」大塚功子 功 子

鳥雲に廻る気の無き風見鶏

(「好日」十一月号より)

令和七年沖・結社賞

- 第五十三回沖賞 峰崎成規 成 規
- 去年今年軽重間はず背負ふもの
- 第五十三回新人賞 矢野隆男 隆 男
- 騎士団の盾の大揺れ芋嵐
- 第五十三回新人奨励賞 池田文枝 文 枝
- 白杖の色なき風に踏み出せり
- 鳴賞・鳴新人賞 (「沖」一月号より)
- 鳴賞 西村将昭 将 昭
- 中干しの田にざり蟹の穴数多
- 鳴新人賞 土門なの子 なの子
- 枝豆や話途切るとき一つ (「鳴」一月号より)

令和六年度野火三賞

- 野火賞 伊藤泰子 泰 子
- きさらぎや眼鏡の瑕をかざし見て
- 新人賞 しまだ桃子 桃 子
- 冬に入る鉄のブランコ鉄の柵
- 新人賞 中妻ゆうこ ゆうこ
- 松ぼくりわざわ踏んで今朝の冬
- 青霧賞 「夏の暁」窪田幸代 幸 代
- 夏来る上高地行深夜バス (「野火」一月号より)
- 第四回青霞賞
- 青霞賞 「記憶」中本澄子 澄 子
- 湯上りの髪に手櫛の良夜かな
- 青霞賞 「網戸風」江澤茂子 茂 子
- 浜掃除して海風の涼しさよ (「初蝶」一月号より)

千葉県俳句作家協会 運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替 〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

新入会員一句

ひとさしゆびのまほうにかかれあかとんぼ	加藤 裕太
曳く翼に力巢立鳥	清水 陽子
鳳凰の羽ばたく根深汁の椀	下田寿美子
戻らざる時を操る蟻地獄	矢野 隆男
爽やかし健康といふたからもの	高岡富美子
突如くる兄弟喧嘩かなぶんぶん	秋元 政子
富士塚より十一月の眺めかな	杉村みゆき
冬夕焼影を明るくしてゐたり	江部 博
可惜夜のひらりひらりと垂り雪	吉良 奏秋
数へ日や縁切り寺の昼の黙	岩永 靖舎

基金御礼 (令和六年七月二六日以降)

中川 素子 徳吉洋二郎
(令和七年一月三〇日現在…三口、六千円)

受贈誌より

あびこ(三七六号)	秋蟬のつくつくと鳴き尽きるかな	染谷 卓
いには(二月号)	聖夜乾杯被団協会平和賞	村上喜代子
沖(二月号)	雪となる音無き音に目覚めけり	能村 研三
音信(一月号)	天白の旗靡かせて初荷かな	白鳥紅星子
響焰(一月号)	ふゆざくら電車親しき街の音	米田 規子
鴻(一月号)	鴉に冬醬の町の風の音	増成 栗人
好日(二月号)	命終にシマフクロウを立ち会はず	高橋 健文
鳴(二月号)	縄文の森は柔らかか冬の鴟	加藤 峰子
軸(一月号)	博多独楽思いの糸を昇りゆく	秋尾 敏
瀬祭(一月号)	早暁のスマホに届く御慶かな	本田 攝子
野火(二月号)	富士晴れて目高の鉢の初氷	菅野 孝夫
初蝶(二月号)	ボーイスカウト作のお汁粉文化祭	中山 和子
万象(二月号)	足弱の夫送り出す冬たんぼぼ	江見 悦子
ペガサス(二十一号)	カボチャキャンドル閉じ込めた叫びが灯る	羽村美和子
百鳥(一月号)	露の夜の旅に出合ひし一茶句碑	大串 章
るんど(二月号)	せいちやんと呼んで小春の電話口	すずき巴里

事務局日誌

◆令和六年度 第四回理事会 (出席者26名)
日時 令和6年11月16日(土)
会場 千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室

1 令和6年度(第66回) 千葉県俳句大会の報告について

2 令和6年度成田山秋季吟行会の報告について

3 令和6年度新春交流会について

4 令和7年度新緑交流会について

5 令和7年度千葉県俳句大賞について

6 第39回協会賞について

7 千葉県県民文化祭の俳句短冊展示の報告及び青葉の森短冊展について

8 会報「真木」212号について

9 その他 事務局報告会員異動

会員異動

新会員

加藤 裕太(香取市)	清水 陽子(船橋市)
下田寿美子(東京都)	矢野 隆男(千葉市)
高岡富美子(香取市)	秋元 政子(山武市)
杉村みゆき(木更津市)	江部 博(流山市)
吉良 奏秋(流山市)	岩永 靖舎(富里市)

謹 訃

廣瀬 弘子 様
馬淵 津枝 様
白鳥紅星子 様

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七一
D一〇〇五
電話&FAX 〇四七・四八七・七二二七

心を満たす俳句

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 〇四七・三六三・四五〇八
FAX 〇四七・三六六・五一〇

主 宰 増成 栗人
師系 角川源義 吉田鴻司



月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鷗俳句会

代表 加藤 峰子
創刊 田中 午次郎
再刊 伊藤 白潮
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方
電話・FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す
月刊 好日

創 刊 阿部 笏人
主 宰 高橋 健文

誌代 一年 一、二〇〇〇円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉二ノ七八
好日俳句会
電話 〇四七・七一三・一六四九五
振替 〇〇二五〇・一四二二七八

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊50周年

軸

軸俳句会

主 宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

主 宰 染谷 卓

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一・七二八・二四四四一

郵便振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四
あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには

主 宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 隔月刊 遊牧

名譽代表 塩野 谷 仁
代表 清水 伶

誌代 一年 六、〇〇〇円(送料共)

〒290-0003 市原市辰巳台東五三二一六 大西方
遊牧俳句会

電話 〇四三・六七四・五三四四
振替 〇〇二八〇・五二〇〇二七